

音楽科

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校 公開日: 2025-05-15 キーワード: 作成者: 高山 愛 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/0002002636

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License.



実践事例

音楽科

音楽科

高山 愛

1. 3年「日本と世界の音楽」で重点的に育成を図る資質・能力と手だて

好奇心	課題に向き合い、思いを表現しようとする ①児童の心が動くような学習材と出合わせる
調整力	一人一人の思いや意図を表現につなげることができる ②音を聴き合う場を設定し、様々な表現方法に気付かせる

本題材は、日本や世界の様々な国や地域の歌や音楽に親しみ、その特徴を感じることを主なねらいとしている。そのために、体を動かしながら歌ったり、楽器を重ねてリズムにのりながら演奏したりすることで、それぞれの歌や音楽の特徴を感じ取る活動を行った。

(1) 好奇心

①児童の心が動くような学習材と出合わせる

児童の心が動くような学習材と出合わせることで、題材をより身近に感じ、「やってみたい」と自分から興味をもつことができると考えた。

そこで、導入の場面で遊び歌は日本だけのものではないことや、世界中でそれぞれの国に伝わる遊び歌を楽しんでいることを知る活動を行った。

世界地図でどこの国の音楽か予想と確認をしながら各国の遊び歌を鑑賞することで(資料1)、児童は「アフリカにも日本と同じように手合わせ歌があるとは思わなかった。」「どの国の歌もリズムにのりのりで元気が良くて楽しそう。」と話していた。この姿から、手合わせ歌との出会いに心を動かされている様子がうかがえる。他にも、「よく遊ぶ



資料1 世界地図で確認

アルプス一万尺がアメリカの手合わせ歌だと知ってびっくりした。」と驚く発言や、「日本の手合わせ歌には他にもおちゃらかとか茶摘みとかあったよ。」と、自分の国に昔から伝わる手合わせ歌への興味と愛着を深める発言も見られた。

導入後も『陽気なかじや』はドイツとオーストリアの音楽なんだ。』『メロンの気持ち』の『コラソソ』っていう歌詞の意味を調べてきたよ。」等、曲を生みだした国や言語にも興味をもち、積極的に理解しようとしていた。このように児童の心が動くような学習材との出会いによって、課題に向き合い、思いを表現しようとする姿が見られた。

(2) 調整力

②音を聴き合う場を設定し、様々な表現方法に気付かせる

本單元では、音楽のリズムにのりながらの表現活動が多くなるため、創作の活動で行うことの多い、音を聴き合う場ではなく、考えた手合わせを見合う場が該当する。そのため、本單元では様々な表現方法に気付かせるために、考えた手合わせを見合う場を設定した。

前時にあたる日本の手合わせ歌「十五夜さんのもちつき」の学習では「相手と合わせる」「拍に合

わせる」ことの大切さに気付き、その後の「陽気なかじや」では三拍子の拍にのって身体表現を行った。この「陽気なかじや」では「十五夜さんのもちつき」での学びを生かし、オリジナルの手合わせ作りに取り組んだ。

まず、児童は教師が例示した手合わせと歌を一緒に行い、歌と手合わせが合っているとリズムにのって楽しめることを実感した。その後、複数の動きをカードで提示し、手合わせ歌は様々なバリエーションがあることを伝えた（資料2）。児童は、「自分たちも『陽気なかじや』の手合わせを作りたい。」という声を上げていた。



資料2 提示した手合わせ

「どんなことに気を付けて手合わせを作るといいかな。」と問うと、児童は「1・2・3の動きになるといいと思う。」「拍に遅れないようにするにはどうしたらいいかな。」「二人の動きが合わせやすすないと…」と前時に学習した内容をふり返りながら手合わせを二人一組で作りはじめた。提示した手合わせの例を組み合わせて動きを考えたり、全て自分たちで動きを考えたり、思い思いの手合わせを考えていた。

しかし、「自分だけの動きにしたい」という思いが強く、四つの動きによる手合わせになり、3拍子からずれてしまう児童、複雑な動きになり、拍の流れから遅れてしまうが、動き重視になり気付かない児童が見られた。そこで、考えた手合わせを見合う場を設定し、手合わせを交流し合った（資料3）。

- A児：上(顔の前)→下(ふともも)→真ん中(肩)だと手の動きが行ったり来たりして拍に遅れてしまうんだと思います。
- B児：下から上へ手合わせが動くからスムーズに拍にのれたよ。
- C児：1拍目はどん！（足踏み）っていうのがいいと思います。1！2、3 1！2、3…って言いやすいから動きも1拍目が強くなると拍の流れに合いやすいんだと思います。
- D児：難しい複雑な動きはかっこいいけど難しく遅れてしまうから簡単な動きにしてくれるとやりやすいし拍にもりやすいです。
- E児：動きが四つになっているよ。三つにしないと1・2・3の拍におさまらないよ。

資料3 交流の場面での発言

この交流によって、拍の流れにのりづらい手合わせを考えていたペアは、よいと思ったところは自分たちの動きに取り入れたり、合わないと思ったところや助言されたところはどうしたらよいか考え改善したりしていた。

教師が目指した姿は、拍の流れにのって手合わせができるかという姿であった。児童は意欲的に拍にのった手合わせを考えることができていた。しかし、この場合、「のんきなかじや」「せっかちなかじや」など児童の自由な「かじや」のイメージをもとに手合わせを考え、見合う場では『〇〇なかじや』のためにどんな表現にしたのか」という観点から多様な表現の方法に触れる活動のほうが児童の意欲や表現の幅が広がったのではないかと考えられる。今後、児童の思考や発想を広げ、それらを表現に反映できるような活動を考えていきたい。